

## 中国の家族観について

経営学科 1 年 西川かおり

はじめに

私は大学に入学してから教養セミナーや授業を通じて何人かの中国人留学生と親しい関係になった。初めてキャンパスの中で彼らから話しかけてもらえた時はなんて嬉しかったことか、今でも鮮明に覚えているほどだ。最初の頃はきっかけが掴めずなかなか溶け込むことが出来なかったが、授業で覚えた中国語をがむしゃらに話してみたりと自分から突撃してみると、彼らも反応してくれて、まるでキャッチボールのようで嬉しかった。実際、彼らはとても気さくだし、一生懸命話してくれる。そして、彼らと交流が深まっていく中で、ある疑問点が出てきた。それは「ワタシニハ兄ガイマス」とか「3ニン兄弟デス」など。しかし中国は1979年から人口抑制政策の一環として「一人っ子政策」を実施してきているはずでは……？そこで「一人っ子政策」について詳しく調べてみようと思う。

### 1. 一人っ子政策について

中華人民共和国における人口抑制政策（1979年）を指す。元はと言えば毛沢東の時代に多産を称賛したため爆発的に人口が増加し、その結果貧しくなり、食料不足や治安が悪くなったなど様々な問題を残した。そのため当時5億人だった中国の人口は、30年後の1970年代の終わりには10億に増えた。この数は世界の人口の5分の1強を占める。しかし、もしこの政策を採用しなかった場合、人口は15億人超になったと推定されている。また自然増加率（出生率から死亡率を差し引いたもの）は25.83%(70年)から8.77%(99年)に大幅に低下したとされている。

### 2. 男女比のアンバランス

農村の1歳児の子供の数を見ても男子820万人に対して女子は680万人しかいない。明らかに男子が女子を上回る状態だ。なぜこういう問題が生まれたのかというと、農業には体力のある男子は大切な労働力であり、沢山必要とされてきたのだ。しかし、もし**女の子が生まれた場合**どうなるのだろうか。残酷ではあるが女子と分かった時点で現実に①両親が赤ちゃんを中絶したり、②女子の間引きや③捨て子の増加が深刻な問題となっている。

① の対処策として、中国では子供が産まれる前に医者が性別を両親に教えることを法律で禁止した。

しかし個人経営の医者が闇でお金をとって性別を教えるという商売が横行している…

② 最近では養子縁組という形で中国人の子供を欧米人が養子にもらっている。子供の実に99%は女の子である。これは経済状況を理由に…というよりは「女の子が生まれてしまった」からというのが圧倒的であることが分かる。

③ 家を失った子供は乞食になる。男女比アンバランスから嫁不足により3000万人の男性が結婚難に直面するともいわれている

### 3. 戸籍に入れない

一人っ子政策に反する形で生まれた第二子以降の子供は戸籍に入ることが出来ない。いわゆる「**闇っ子**」(**ヘイハイズ**)とは、無届の子供のことを指す。3000万人~4000万人いると推定されている。普通子供が生まれたら役所などに届けなければいけないが、中国で生まれた第二子は法律に違反してしまうため戸籍に入ることが出来ず国民として認められないため、学校教育・医療などの行政サービスを受ける事も出来ないだけでなく、就職などの際にも不利な取り扱いを受けることが多いため、成人したヘイハイズの多くが働き口を求めて闇社会に流れたり、周

辺諸国に不法入国したりするケースも目立ってきた。また、長女は自分の弟や妹の戸籍を買うために都市へ出稼ぎに来るケースが多く見受けられる。

#### 4.兄弟の存在

最近では規制が緩和され、二人目が生まれた場合、罰金（税金）を払えば戸籍や身分証明書ももらえるようになってきた。二人目の場合は罰金1万円（日本円にして約15万円）、3人目からは罰金10000元～50000元（約1万5千円～7万5千円）で、10000元は中国の約1ヶ月分の給料に相当する。

また、緩和の程度や仕方は人口の問題から、省・自治区・特別市に任されているため、手続きをすれば一人っ子同士が結婚した場合、2人まで産めることさえも可能になる（少数民族は一人っ子政策の除外の対象にあたるため、規制なし）。

#### 5.一人っ子に対する過保護

都市部においては一人っ子に対する過保護が見受けられる。一人っ子は、両親と祖父母の6人（全員生きていた場合）の大人から一身に愛情を受けて子供の頃から甘やかされて育ったため、社会に出ても適応が出来ない、弱弱しい子供が多くなった。特に中国では両親が働いて、子育ては祖父母が行う事があるので、さらに過保護がエスカレートしてしまい、「都市部の一人っ子は採用しない」と打ち出している会社もあるぐらいである

#### 6.人口の高齢化

一時的に爆発的に人口増加した後、一人っ子政策が打ち出されたので、人口の多い世代の高齢化⇨子供の減少、平均寿命の伸び、20歳以上の老年人口は15%を占める社会になってしまった。中国も日本と同じように少子高齢化が進んできており、今28歳以下の人は主に一人っ子であるため、20年後、夫婦は老人になった両親4人と自分たちの子供を養っていかなければならず、一人っ子は、今は幸せかもしれないが将来結婚したら絶対幸せにはならないはずだとも言われている。

#### 7.現代の中国の女性たち

中国では、もともと女性の労働化率が高かったため、大都市では、マンションを買い、家庭電化製品を揃え、次に自動車を買おうというOLが増加している。また、働き甲斐や所得の上昇、生活水準の飛躍的向上といった楽しさを知った結果、結婚して子供を育てようという女性が少なくなった。これは少子化へ移行してしまう結果を招くと思う。

#### 8.まとめ

この研究を進めるにつれて、だんだんと一人っ子政策の長所と短所が明らかになってくると私にはあまりこの政策がうまくいったようには感じられなくなった。表面的には、人口が抑制され食糧危機が回避できたという大きな役割を果たしたが、結果、女子の間引きや戸籍がなく将来が不安定な子供たちをたくさん生んでしまったこと、極端な人口減少により中国も日本と同じように少子・高齢化社会を迎えようとしていることだ。にもかかわらず、今中国は高度経済成長真っ盛りということで、それに見合った案が未だ提示されていないことはこれから中国がぶつかる大きな壁になるのではないかと思う。

兄弟がいる私にとって、幼いころから妹とケンカをすることは、ごく普通なことであったし、何度も親から叱られ、しつても厳しかったがその分愛情もいっぱい注がれて育ってきた。しかし、一人っ子が多い中国では大事な幼少期から甘やかされて育った分、大人になっても利己的で自己中心的な性格の人が多く、彼らは社会に出ても対応ができず、そんな人間ばかり集まった社会はうまく稼働していかないであろう。

しかし、私の周りの人はみんな気さくな方が多いし、大して日常生活に支障が生じることはほとんどないが、これからは自分も勉強したことを生かして中国に関係する仕事に携わる時がきたら、そこには色々なタイプの性格の人もいれば、環境も今までとは全然違う場所に遭遇しても、大学で彼らと初対面した時のように仲間として大切にしていきたいし、そんな人間に自分もなりたいと思う。